

震災ドキュメンタリー映画シリーズ 第2弾

「映像でみる被災地 in 名古屋」



写真：原発23kmに咲いた菜の花（2013年5月 福島県南相馬市）

～被災地で生きる人達の“生の声”を、
1人でも多くの人に伝えたい～

名古屋の報道機関で働く一人の女性ディレクターが、
東日本大震災以降2年余りに渡って、東北に通い撮り続けた映像記録

2014年1月17日(金)19時 開演(18時30分開場)／HITOMI ホール

◆上映会&笠井千晶ディレクター講演会 ◆入場料:無料

※申し込みはメニコンANNEXウェブサイトより。申し込み多数の場合は抽選となります。

→<http://www.annex.menicon.co.jp/>

※会場内では、復興支援のためのチャリティ寄付を実施します。寄付金は、下記団体へ寄付致します。可能な範囲でご協力をお願い致します。

・「福興浜団」(福島・南相馬市)

→ <http://www.facebook.com/fukkouhamadan#!/fukkouhamadan/info>

・NPO法人「さくら並木ネットワーク」(東北3県:本部・東京)

→ <http://sakuranamiki.jp/>



～被災地で生きる人々の決断～

東北の被災地の中でも、津波と原発事故の両方に見舞われた福島県南相馬市(福島第一原発の北10km～40km)の現状は、あまり知られていません。上映会では、震災から2年半が過ぎた南相馬市を中心に、東北の被災地で生きる人たちの姿を撮影したドキュメンタリー3本をご覧頂きます。1つ目の映像は、自然豊かな土地が原発事故によって一変。原発20km 圏内に位置し、放射能汚染だけでなく、農業・畜産への打撃や人口流出などの問題に直面する集落の現状を伝える「フクシマ警戒区域」。2つ目は、津波で行方不明となった家族を捜し続ける元消防団員の男性の2年半を追った「家族をさがして～3年目の春～」。3つ目は、津波到達点を後世に残すため、桜を植えた東北各地の津波被災者の想いを伝える「津波到達点に桜を」をご紹介します。この上映会が、被災地の現状に耳を傾け、自分にできることは何かを考える機会になれば幸いです。上映後には、笠井ディレクターより撮影への想いや現在の被災地について語って頂きます。



【撮影・編集】 笠井 千晶

静岡県内の放送局報道記者を経てフリーに。NY留学後、現在、名古屋の報道機関で契約ディレクターとして勤務。これまで手掛けたドキュメンタリー番組では、日本民間放送連盟賞 テレビ報道番組部門最優秀賞(2004年)、第15回平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞(2009年)、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞奨励賞(2010年)などを受賞。ドキュメンタリー制作者として、「寄り添う目線」にこだわり活動する。現在は、東日本大震災後の東北に毎月通いながら、撮影と映像制作、個人上映会の開催を続けている。上映会「映像でみる被災地」は、今回が名古屋で3回目の開催となる。

開催日:2014年1月17日(金)

時間:19:00開演(開場 18:30)

場所:HITOMIホール
(メニコンANNEX5階)

入場料:無料

※当日、会場内にて復興支援の募金活動を実施します。可能な限りご協力をお願いします。

申し込み:メニコン ANNEX ウェブサイト。

→<http://www.annex.menicon.co.jp/>

申込締切:12月20日(金)

問合せ:052-935-0918 (ANNEX 事務局)

Email:uketsuke-annex@menicon-net.co.jp

主催:(株)メニコン



◆メニコンANNEX(アネックス)◆
住所:名古屋市中区葵三丁目 21-19
地下鉄千種駅5番出口 徒歩4分